

「高校野球200年構想」の5大目標

普及 子どもティーボール教室



振興 小中学生のための野球教室



けが予防 高校生対象の肩、ひじの検診



育成 指導者の育成
栄養指導のモデル作り

基盤作り 都道府県単位の協議会設立
情報共有のためのシステム作り

野球界全体が世代や垣根を越えて手を取り合う。次の100年に向け、最も大切なことだ。 〓おわり (小俣勇貴)

もっと知りたい

高校野球⑤

「野球離れ」に歯止めをかけようと、主体的に普及活動に取り組む高校がある。そのひとつが、公立校の平田(島根)だ。

今春の第92回選抜大会に、戦績だけにとらわれずに選考される「21世紀枠」で出場する。部内の「普及班」が地元の未就学児を対象に、数年前から野球体験会を開いてきたことが評価された。幼稚園や保育園への打診方法から幼児への接し方まで、部員が感じた留意点をマニュアルにし、島根県高野連が加盟校と共有している。

出場校を選考する1月24日の会議で、平田を推薦した島根県高野連の萬治正専務理事が、ある体験会の様子を紹介した。終わり際、何か言いたそうにしていた園児がいたという。先生が促すと、「お兄ちゃん、抱っこして」と部員にお願いした。「おいで」と声をかけると、他の園児も次々と

子どもに広める活動は進んでいるの？



マダニヤイ

部員らに駆け寄った。萬治専務理事は熱弁した。「野球部のお兄ちゃん」は憧れのヒーローになりました。全国でこの感動的な光景が一日でも早く見られることを願います。野球人口減を念頭に、「普及活動は、待ったなしです」。

こうした取り組みへのサポートが2018年度に始まった。「高校野球200年構想」だ。春夏の甲子園大会を主催する日本高校野球連盟と朝日・毎日両新聞社が高校野球を次代につなぐため、「普及」「振興」「けが予防」「育成」「基盤作り」の5大目標を掲げて事業を展開している。

運営費や助成金は、全国選手権大会の剰余金の一部などを積み立てた基金から支出。初年度は全国で121事業が実施され、19年度は約200事業が展開されている。平田が取り組む体験会もその一環だ。普及活動に必要な用具の配布や各都道府県高野連が開く子ども向けの野球体験フェスティバルも支援している。

支援を受けずに活動する学校もある。姫路南(兵庫)は、昨年12月に地元の少年野球チームを自校グラウンドに招き野球教室を開いた。「勝手の分かる場所だから安全も確保しやすい」と吉本純也監督。少年野球の保護者が高校の保護者に質問できるよう、学校の教室を「相談室」にしたのも好評だった。「お金をかけなくてもできることはあるし、どの地域、学校でもできる」と吉本監督は言う。

200年構想は、まだ「種まき」の段階だ。今後は、姫路南のような工夫を共有し、全国に広げることが必要になる。カギを握るのが5大目標の「基盤作り」にある、地域ごとの協議会の設立だ。

「先進県」といわれる新潟では、県高野連をはじめ、小学生、中学生のカテゴリー別で活動する団体がまとまった「新潟県青少年野球団体協議会」が11年にでき、活動を進める。しかし、まだ47都道府県全てに協議会が設置されているわけではなく、活動実態にもばらつきがある。

野球界全体が世代や垣根を越えて手を取り合う。次の100年に向け、最も大切なことだ。 〓おわり (小俣勇貴)